

## 7 腸管出血性大腸菌感染症

夏に多く見られ、O157で有名

### 1 病原体名

腸管出血性大腸菌

### 2 年齢層

全ての年齢

### 3 潜伏期間

3～8日

### 4 症状とケア

- ✓ 激しい腹痛があります。はじめは水っぽい下痢が出て、ひどい血便に変わると重症になる可能性があります。
- ✓ 健康な大人は、無症状や軽い下痢で終わることもありますが、子どもや高齢者は重症になる場合があります。
- ✓ 脱水症状に注意して水分補給をします。
- ✓ 自己判断で下痢止め薬を飲まず医師に相談しましょう。
- ✓ 医師の許可が出るまで、学校へは出席停止です。出勤も控えましょう。

### 5 診断と治療

- ✓ 便の検査をします。



- ✔ 特別な治療方法はなく、対症療法を行います。
- ✔ 抗生物質の使用は、医師の判断に従います。

## 6 家庭に持ち込まないために

- ✔ 感染経路は、経口感染、接触感染、ふん口感染です。
- ✔ ワクチンなどの予防法はありません。
- ✔ 生や加熱不足の牛肉、汚染された生野菜等を食べることで感染します。以下の家庭でできる食中毒予防のポイントも参考にしましょう。  
⇒ [家庭でできる食中毒予防のポイント](#) (p.23)



## 7 家庭で拡げないために

- ✔ 家庭内の二次感染を防ぐため、食事前、トイレ後やおむつ交換後は、石けんでしっかり手洗いします。
- ✔ トイレの便座など、汚染された可能性がある場所は、アルコールや次亜塩素酸ナトリウム液で消毒します。
- ✔ 下痢で床やシーツ、衣類などが汚染されたときは、二次感染を防ぐため、手順を確認して対応してください。  
⇒ [便・おう吐物の処理方法](#) (p.20)  
⇒ [便やおう吐で汚れた衣類の消毒](#) (p.21)